

農業



平成26年10月号
会誌 No. 1590

目次

巻頭言

産業のボーダーレス化時代と農業の適地適産……………石塚 虎雄 3

論 壇

風評被害再考……………門間 敏幸 4

◇先進的農業経営研究会◇

今後の農業経営の持続的発展のあり方を求めて…………… 6
－わが国農業を先導する先進的農業経営研究会（第1回会合）－

◇表彰農家訪問◇

確固たる経営理念のもと大胆な転換で、豊かな農家生活を実現 ……八巻 正 28
－岩手県北上市に佐藤安友さん、和子さんを訪ねて－

◇研究の最前線◇

米油原料用稲の生産・実用化に向けた取り組み……………佐藤 光 36

農業・農村の現場から

売り場面積あたりの来客数日本一！……………後藤 一寿 48
-道の駅^{きよだ}許田 やんばる物産センター-

世界の農業は今

韓国農業の新しい跳躍……………Eui Su Kim 53
-強小農の育成-
Chi Woong Rho
Soo Jung Yang

ミニ情報「平成26年5月～9月の平均気温、降水量および日照時間」… 57

統計情報

平成26年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況…………… 58

農政情報

…………… 59
大日本農会だより…………… 60

編集部から…………… 60

表紙写真説明

大規模経営に成長した地域の星（茨城県龍ヶ崎^{ぬると}市塗戸町）

茨城県龍ヶ崎市塗戸町は、湿田が多い平場の水田地帯である。横田さんは、平成26年3月号の本誌の座談会に登場した先進的経営を行う38歳の農業経営者で、今年は、雇用を入れた7～8名で112haの水田経営を行っている。地域の担い手が減少する中、横田さんへの水田集積が進み、横田さんは地域の期待の星となっている。しかし、多くの従業員で約350枚の水田の把握・管理を行うのは大変で、圃場ごとの特性や作業履歴をIT技術によって情報共有することを始めた。また、さらなる規模拡大には、一層の省力化が必要で、直播を増やし、機械の効率化と品種の分散化を進めている。9割が直接販売で、インターネット販売がその6割だ。

また、平成15年からは、地域の子供たちを相手に「田んぼの学校りゅうがさき」を行っている。奥さんは、お子さん達のおやつ作りから米粉スイーツ店の経営を始めるようになり、TVの取材もやって来た。

横田さんは、平成25年度農林水産祭の天皇杯を受賞された注目の人である。

(写真／説明：編集部)